

共同利用・共同研究課題「チベット・ヒマラヤ牧畜文化論の構築—民俗語彙の体系的比較にもとづいて—」（2021年度第2回研究会）

2021年8月9日(月曜日) 午前13時より午後18時、オンライン開催

本共同研究課題の第5回目となる研究会では、3件の発表と、発表に関する質疑応答・情報提供、今後の共同研究の活動に関する全体討論を行った。当日のプログラムは以下のようである。

1. 星泉 (AA 研所員) 「チベット・ヒマラヤ牧畜文化に関する地理空間情報付きデータベースの共同構築：写真データベースを中心に」
2. 海老原志穂 (AA 研共同研究員, 日本学術振興会/東京外国語大学) 「チベット・ヒマラヤ地域における燃料利用の地域間比較と地理分布」
3. チベット・ヒマラヤ地域における燃料利用に関する情報提供 (全員)
4. 平田昌弘 (AA 研共同研究員, 帯広畜産大学) 「乳文化の体系的地域間比較—チベット・ヒマラヤ地域を事例とした文化の伝播・変遷論考—」
5. チベット・ヒマラヤ地域における乳加工に関する情報提供 (全員)

星泉は、「チベット・ヒマラヤ牧畜文化に関する地理空間情報付きデータベースの共同構築：写真データベースを中心に」と題する発表の中で、今年度から構築をはじめた、本共同研究のデータベースの概要と登録方法、現在の進捗、今後の公開方法について説明を行い、参考となる他の地理空間情報付きデータベースについて紹介をした。発表後は、データベース内の情報を利用・出版するにあたっての規則を決めておく必要性や、写真家などメンバー外の協力者からの写真提供の可能性、タグ付けをどのように進めていくかに関して議論が行われた。

海老原は、「チベット・ヒマラヤ地域における燃料利用の地域間比較と地理分布」と題する発表において、用例・写真データベースを実際に用いて、「燃料」に関する情報を集め、地域間比較を行った事例を示した。発表後、各地点の燃料利用に関する情報提供が行われた他、家畜囲いの中に堆積した糞の燃料利用はどの地域でみられるか、燃料利用と気候・植生との関連性に関する質疑が行われた。

平田は、「乳文化の体系的地域間比較—チベット・ヒマラヤ地域を事例とした文化の伝播・変遷論考—」という発表の中で、まず、文化要素連続体(体系)の地域間比較と文化伝播に関する理論的背景と乳文化における具体例を示し、チベット高原各地において発表者が行ってきた乳文化の体系的地域間比較の実例が体系図を示しながら提示した。文献・写真データベースの情報をどのように取り入れていくかという点が議論され、参加者より、青海省ゴロク、ンガリ地区の乳加工を記録した映像が共有された。

今後の共同研究の活動に関する全体討論では、国際学会でのパネル主催に関する相談や、今年度、来年度の研究会の開催予定や研究内容について議論を行った。

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.